

WICIシンポジウム2020

セッション1

価値創造ドライバーとなる非財務資産のマネジメント

価値創造ドライバーとなる非財務資産のマネジメント

企業による価値創造は何らかの非財務資産の活用に基づいて行われています。一方、非財務資産の対象領域は広く多義的で、増加、減少、変化などする性質があり、伝統的な資産と比べてマネジメントが難しいと考えられています。

本セッションでは価値創造に寄与している非財務資産を特定し、それをどのように獲得、管理、増大させているのか実例を踏まえて議論します。

モデレーター

戸崎 豊 : J-STAR株式会社 プリンシパル

パネリスト

酒井 誠 氏 : マークラインズ株式会社 代表取締役社長

瀧口 匡 氏 : ウェルインベストメント株式会社 代表取締役社長

藤井 亮助 氏 : TORANOTEC株式会社 取締役シニアマネジングディレクター

船橋 仁 氏 : 株式会社ICMG 代表取締役社長

マークライNZ株式会社






マークラインズ株式会社 MarkLines Co., Ltd.

自動車産業のB2B市場 (**Market**) と
企業の皆様を
情報でつなげる線 (**Lines**) の
役割を果たすことが私たちの使命と考え名付けました。

企業概要

会社名	マークラインズ株式会社 (MarkLines Co., Ltd.) 東京証券取引所市場第1部上場(3901)		
本社	東京都千代田区永田町2丁目11番2号 山王パークタワー14階		
資本金	368,551,840円(2020年6月30日時点)		
代表取締役	代表取締役社長	酒井 誠	創業者

【沿革】

2001年1月4日		設立(東京都港区赤坂三丁目)
2003年2月		アメリカ ミシガン州 「MarkLines North America Incorporated」設立
2004年9月		中国 上海 「麦柯莱依斯信息諮詢(上海)有限公司」設立
2013年7月		タイ バンコク 「MarkLines (Thailand) Co., Ltd」設立
2014年12月		東京証券取引所 JASDAQスタンダード上場 新規上場
2015年1月		ドイツ フランクフルト 「MarkLines India Pvt. Ltd」設立
2016年1月		インド ハリヤーナー州 「MarkLines India Pvt. Ltd」設立
2018年3月		東京証券取引所 市場第二部 市場変更
2018年6月		東京証券取引所 市場第一部 指定

事業内容

自動車業界を支援するトータルソリューション マークラインズ自動車産業ポータル

検索サイト ● ● ● ● ●
情報プラットフォーム



プロモーション広告
LINES



業界エキスパート集団
コンサルティング・受託調査



自動車業界に特化した
人材紹介



グローバル市場・技術中長期予測
市場予測



分解調査・部品調達代行
ベンチマーキング

2020年4月 ベンチャーキャピタル子会社設立

業績の伸びとその価値源泉

マークラインズ価値の源泉

3つのC

Commerce

多様なサービス提供

Community

有料会員登録促進

Contents

情報の蓄積

9期連続で最高益更新

■ 売上高

■ 経常利益

単位: 百万円

2001年 2002年 2003年 2004年 2005年 2006年 2007年 2008年 2009年 2010年 2011年 2012年 2013年 2014年 2015年 2016年 2017年 2018年 2019年

-192 -180 -96

変化の先頭に

MARKLINES

www.marklines.com

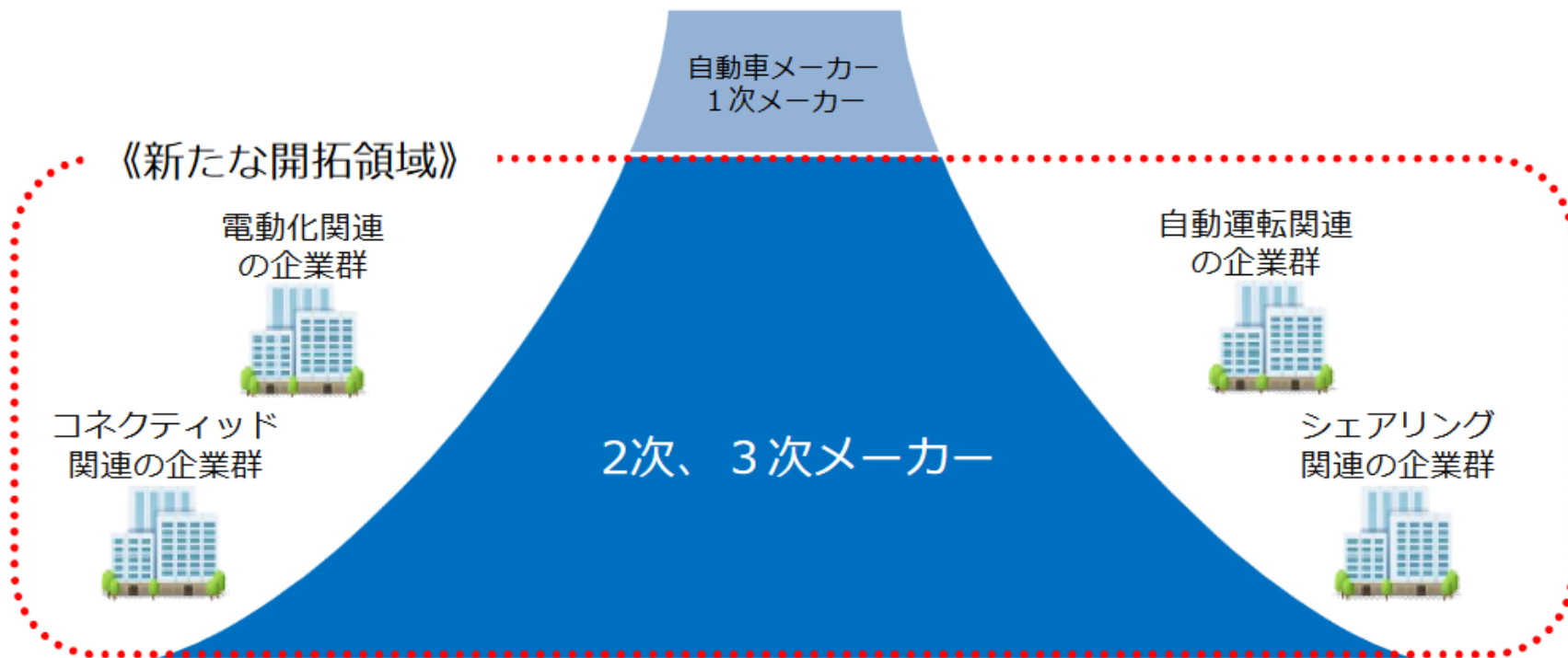
Copyright © 2020 MarkLines Co., Ltd. All Rights Reserved



当社を取り巻く自動車産業

業界のすそ野がさらに拡大＝新たな蓄積「ネットワーク」・「顧客」・「情報」
既存のプレイヤー+“CASE”

自動車産業の裾野を形成する2次、3次メーカーに加え、電動化・自動運転などの変革に伴い自動車産業に新たに参入する企業が増えている。



ウエルインベストメント株式会社

We are the First University-fueled Venture Capital in Japan.

WERU Investment

ウエルインベストメントのご紹介

金融商品取引業者登録番号: 関東財務局長(金商)第2585号

加入協会: 一般社団法人 日本投資顧問業協会

Who We Are

ウエルインベストメント (WERU INVESTMENT) は、早稲田大学アントレプレヌール研究会 (Waseda Entrepreneurial Research Unit (現早稲田大学ビジネススクール管轄)) の発足を活動の起源とし、約20年間にわたって、大学のラボから生まれたテクノロジーの事業化やイノベティブな事業の成長支援を行ってきた、独立系・ハイブリット型 (アカデミック/ビジネス) ベンチャーキャピタルです

“早稲田の知”を礎として国際社会の発展に寄与することをミッションに、企業と資本市場と社会をつなぎ、グローバルカンパニーの創出を追求しています

WERU 理事



松田修一
早稲田大学名誉教授



瀧口匡
早稲田大学学術博士



大江建
米国メリーランド大
実験物理学博士学



柳孝一
早稲田大学学術博士



東出浩教 教授
早稲田大学大学院
商学学術院

WERU 顧問



Prof. Ian McMillan
ペンシルバニア大学ウォートン校



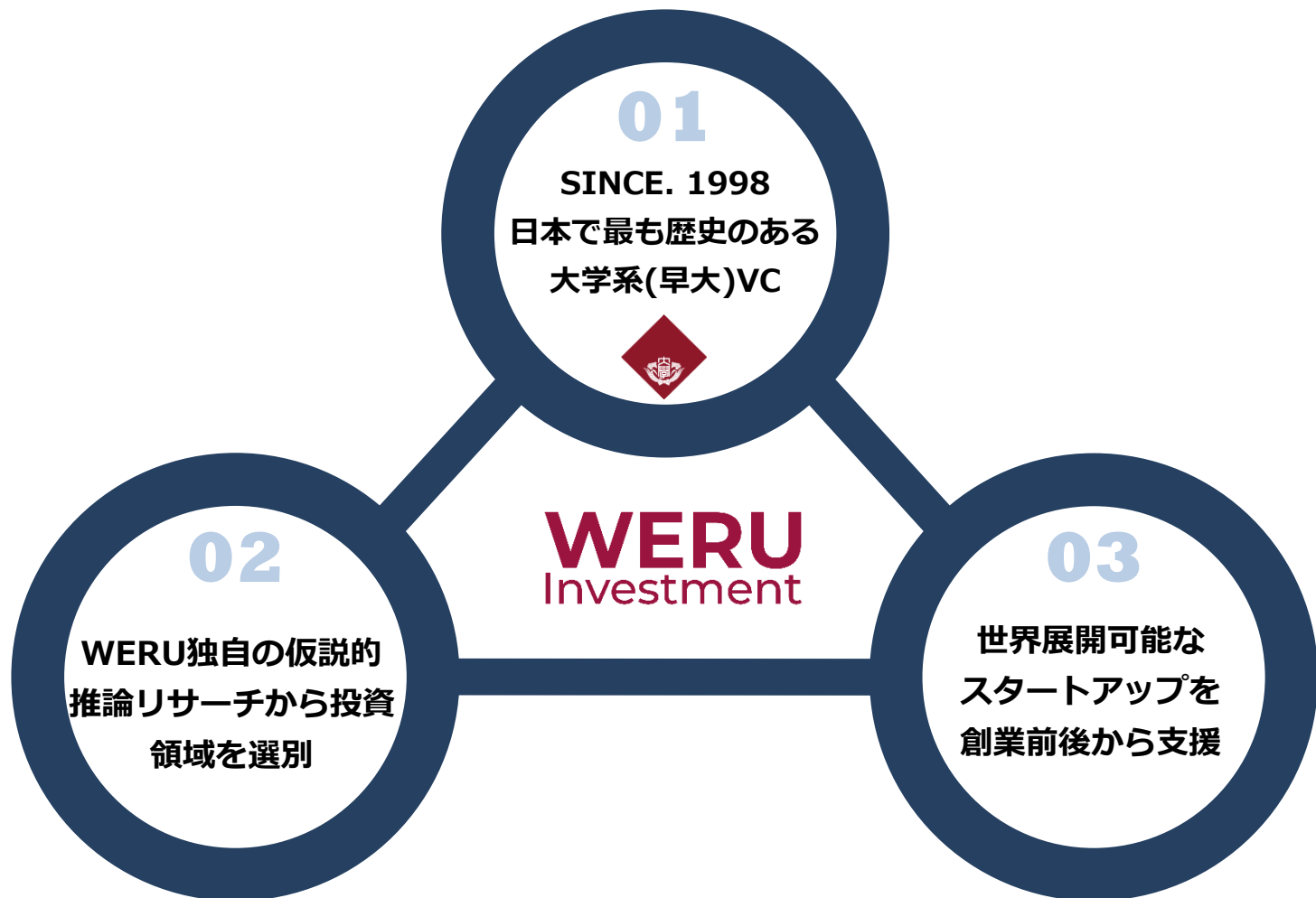
清成忠男 法政大学学事顧問
元法政大学総長



Ph.D. Rita G. McGrath
コロンビア大学経営大学院

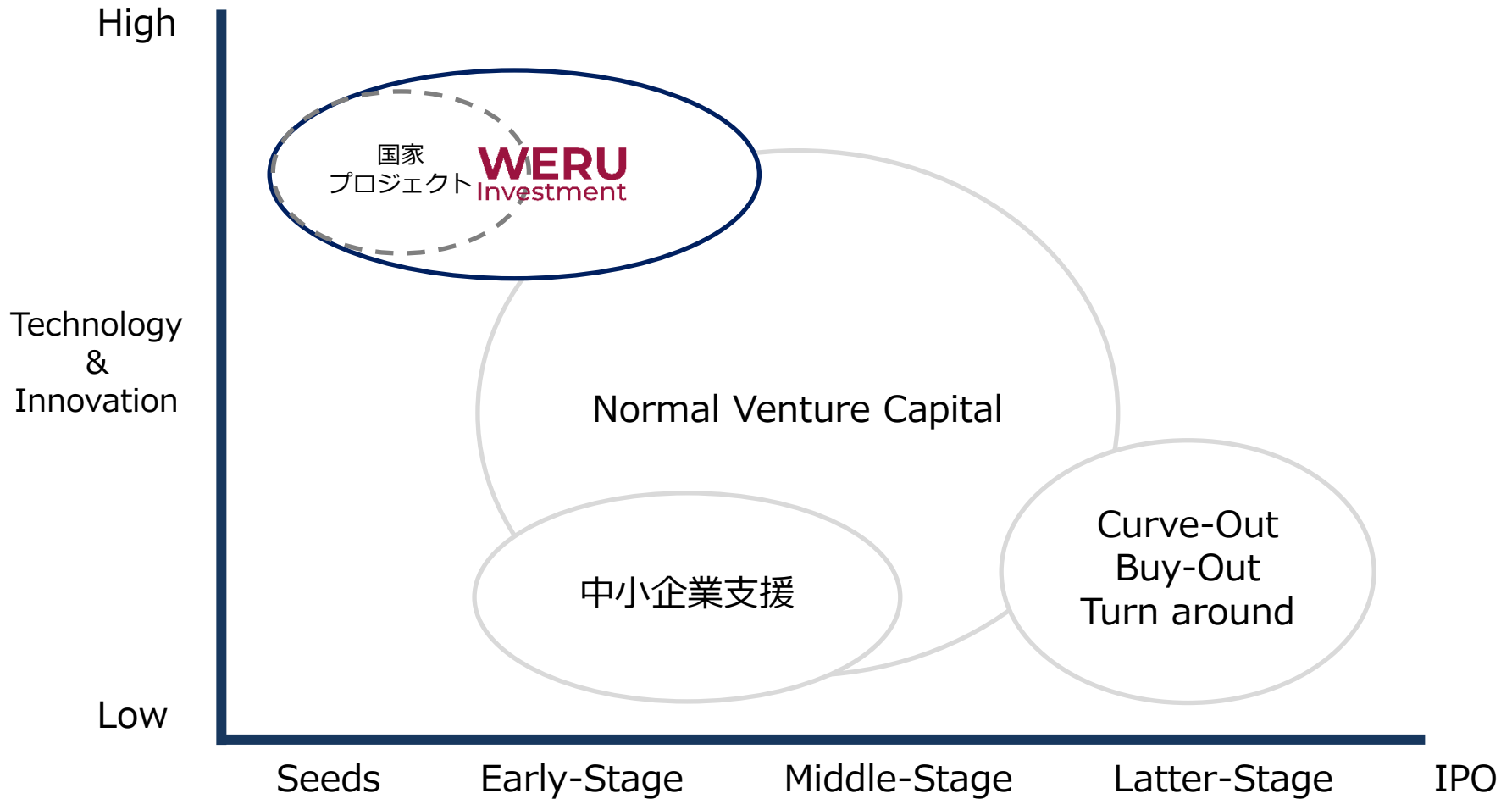
WERU Investmentの特徴

ウエルインベストメントは、20年以上に亘る豊富な国内外の投資実績を有し、技術／産業テーマごとにリサーチ仮説を組み立て、世界展開可能な企業への投資支援を行う、独立系ベンチャーキャピタルです



フォーカス

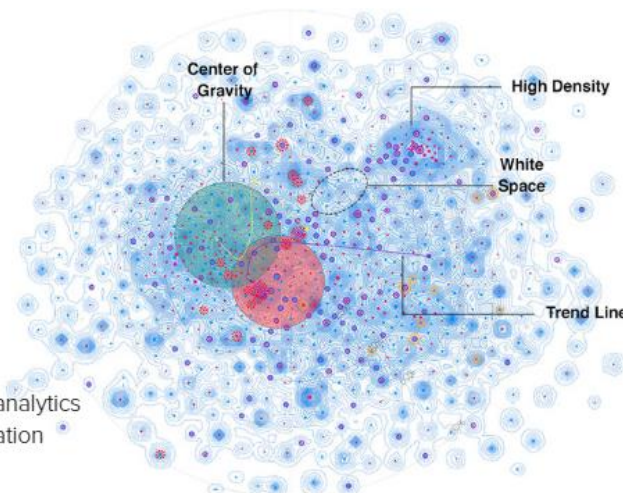
グローバルに発展する可能性のあるディスラプティブな技術やイノベーティブなビジネス・モデルを有するアーリー・ステージ企業に投資し、ハンズ・オンで支援を行います



- 社名： VALUENEX株式会社 (TYO:4422)
- 事業内容：早稲田大学理工学術院 中村講師(元東京大学研究員)の研究成果である、人工知能技術を活用した俯瞰解析サービス
- 投資背景：膨大なデータが価値を生み出すこと (データの資産性) に着目
- 支援内容：経営戦略全般、グローバル市場(北米)展開

Pioneer in AI Predictive Analytics, IP and R&D trend analysis and Big Data visualization

VALUENEX's highly-visualized panoramic view and predictive analytics provide coherent insight from the vast flood of growing information



Thousands of documents on one screen, precisely clustered and mapped through AI

- 社名 : LeoLabs, Inc.
- 事業内容 : 米SRI(Stanford Research Institute)で研究開発された、低軌道上の微細な宇宙デブリまで捕捉するレーダーを用いたSaaS事業
- 投資背景 : 民間主導へと変貌を遂げる新興宇宙産業における衛星の安全運用(デブリとの衝突回避)の必要性に着目
- 支援内容 : 経営戦略全般、グローバル市場(北米以外)展開

LeoLabs Platform for Operators and Developers

Software developers and satellite operations professionals require a new generation of tools. The LeoLabs platform provides applications for operating in low Earth orbit. It's built on top of a real-time map of LEO provided by our unique radar network.

2 radars
13,781 objects tracked
161,992,504 measurements

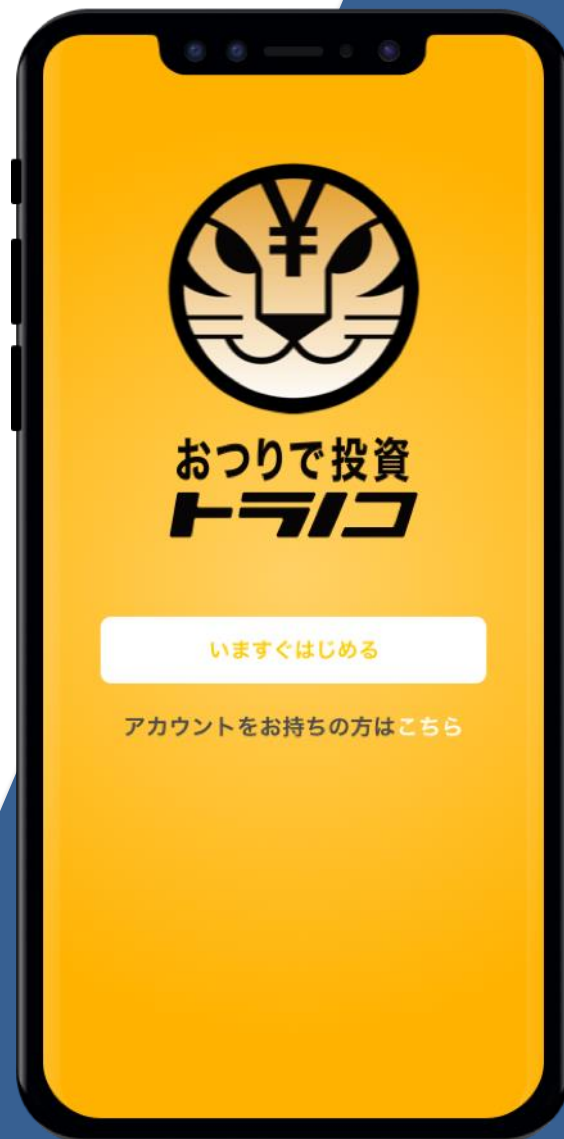
[Sign Up for Trial](#)

TORANOTEC株式会社

おつりで投資

日々のお買い物から少額投資を
実現するアプリサービス

TORANOTEC

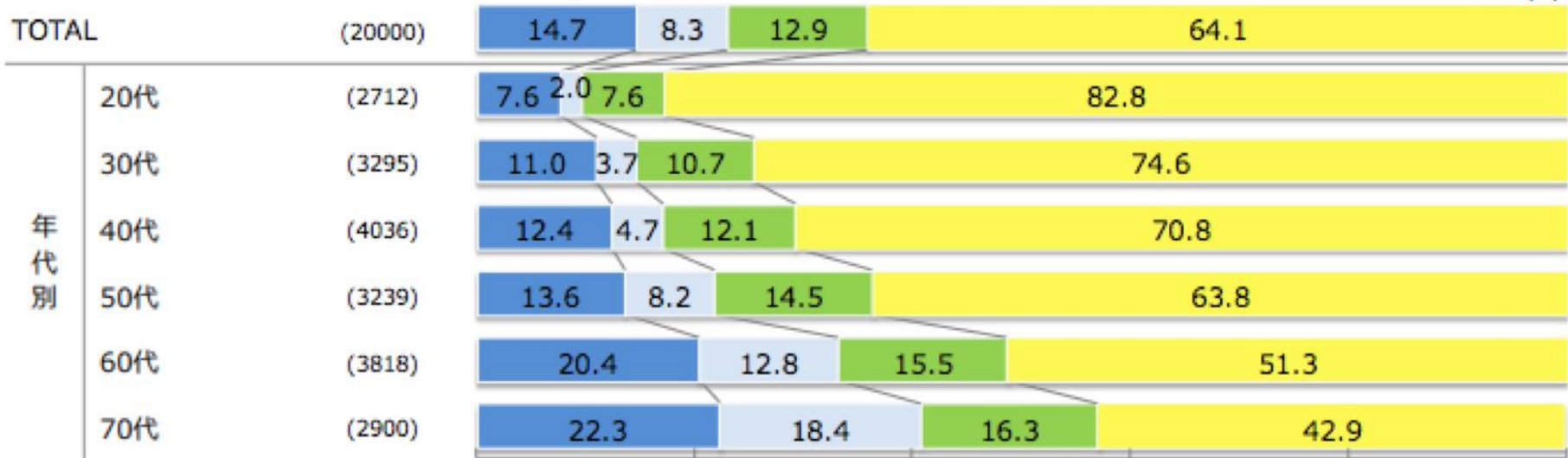


大きなフィールド： 20-40代の70%以上が投資未経験

「2000万円問題」と言われる将来の資産づくりを目指す動きに対して、
投資の裾野拡大の余地大

～投資信託及びその他金融資産保有経験について～

〔図 3-5〕 ■ 現在保有層 ■ 保有経験層(現在非保有) ■ 保有未経験層(金融資産保有経験有) ■ 保有未経験層(金融資産保有経験無)
n= (％)



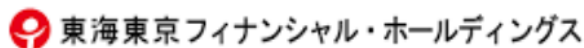
すべての人を投資家に

“貯蓄から投資へ”に加えて、“消費から投資へ”をサービスとして実現し、投資マインドの高くない若年層を含め、より幅広い方々に投資機会をご提供をします。

さらに我々は、銀行、保険など金融機関にとどまらず、日々の暮らしに密接にかかわる、通信・インターネット・小売り企業との連携・協業をはかり、「すべての人を投資家に」の世界を実現して参ります。

会社名	: TORANOTECH株式会社
代表取締役	: ジャスティン バロック
会社設立	: 2016年8月
事業内容	: 金融サービス投資、フィンテックデベロプメント,アプリ運営
資本金	: 31億5,728万円(資本準備金含む)

主要資本提携先:



「おつりで投資 トラノコ」のサービス概要



お買い物の度におつり*を表示、ワンクリックで投資に

- 5円から1円刻みで投資可能
 - アプリで投資を承認した「おつり」の総額が月一回、投資に回る形(自動的に口座から引き落とし)
- もちろん出金はいつでも可能

ポイントでの投資も ~複数ポイントを投資できる唯一のサービス~



投資先はリスク許容度の違う3つのグローバル分散ファンド



安定重視の「小トラ」



バランス重視の「中トラ」



リターン重視の「大トラ」

コストは運用報酬0.3%/年と月額利用料300円

- 投資額が大きくなればなるほど、コストが安くなる設計
- 月額利用料は当初3か月間は無料

「おつりで投資 トラノコ」サービス概要

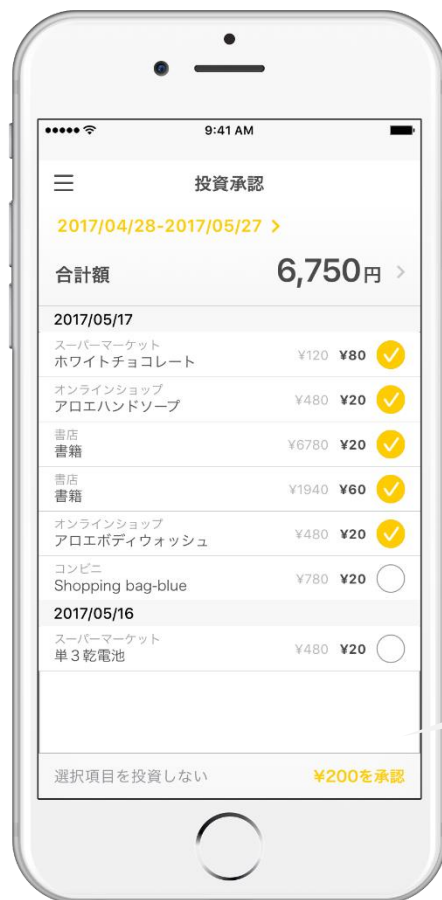
「トラノコ」は、日々のお買い物データを毎日集積し、「おつり相当額」を算出、ユーザーはその投資判断をするだけで、コツコツ資産形成が可能



A

トランザクションデータの集積

日々のトランザクションデータを1,900を超えるデータソースから収集(クレジットカード、デビットカード等)



B

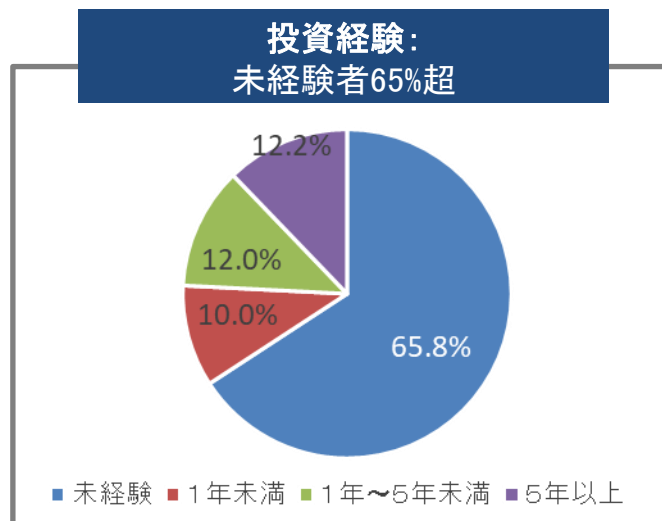
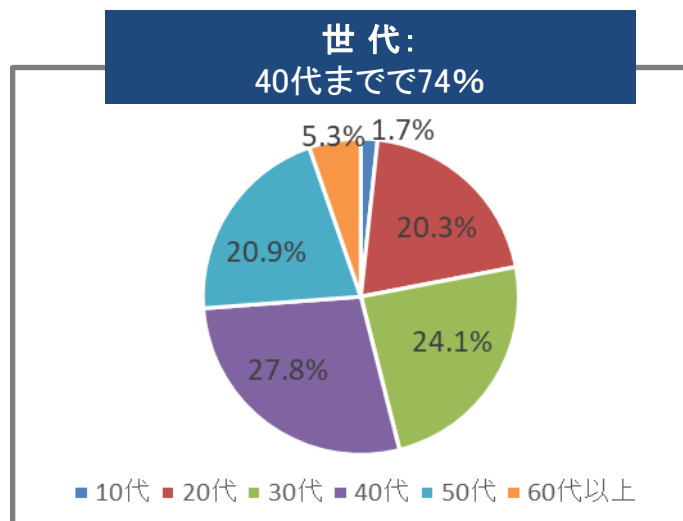
投資実行

- 5円から1円刻みでの投資が可能
- ユーザーは、お買い物の度に、投資に充てるおつりを承認
⇒少額故に自然と投資が蓄積
- あらかじめ設定された銀行口座から投資口座へ自動的に資金移行

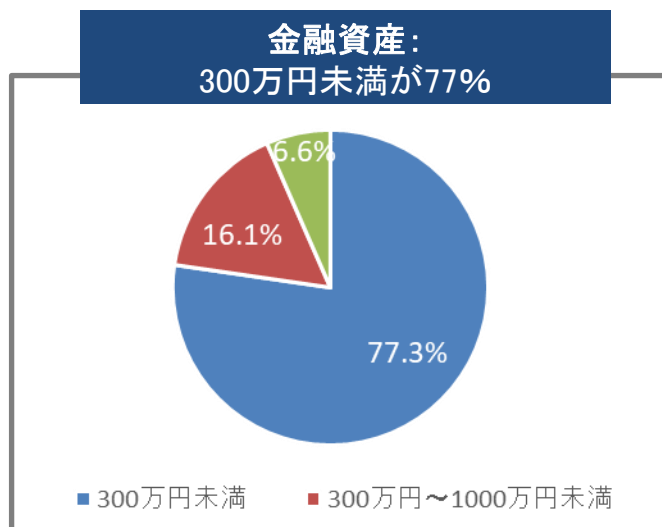
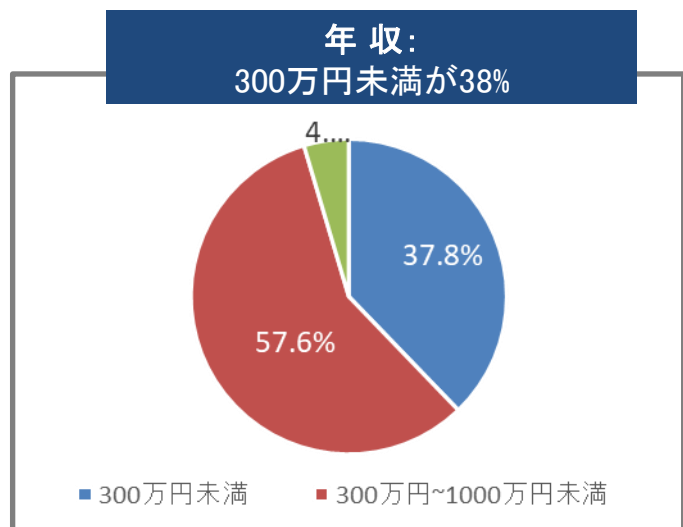


若年層含む幅広い投資位経験層がトラノコで投資をスタート

コロナ環境下も新規利用が進み、開設済み20万口座を突破



投資未経験の若い世代が中心



フローはあるが、ストックが少ない『これからの投資家』

さらに投資のハードルを下げるサービス展開

歩くだけで投資資金が貯まる歩数計アプリ『マネーステップ』



1日1万歩で3円分！月20万歩で10円分の投資資金が貯まる！



トラノコを利用していなくてもご利用可能！

- 貯まった投資資金を活用するためにはトラノコの利用が必要



iOSアプリから提供開始、Android版は今冬に提供開始予定

2020年7月リリース

※ Android版アプリは近日リリース予定

資産寿命と健康寿命の両立を実現
(リリースから3か月で約10万ダウンロード)

粘着性

TORANOTECビジョン: 国内パートナーシップ概覧



「健康寿命と資産寿命」に貢献する福利厚生展開

「マネーステップ」を福利厚生を組み合わせることでご提供することにより
従業員の”金融リテラシー”と”健康”に貢献

「健康寿命
と
資産寿命」



健康経営・SDGsを重視する企業に
導入・ご検討進展

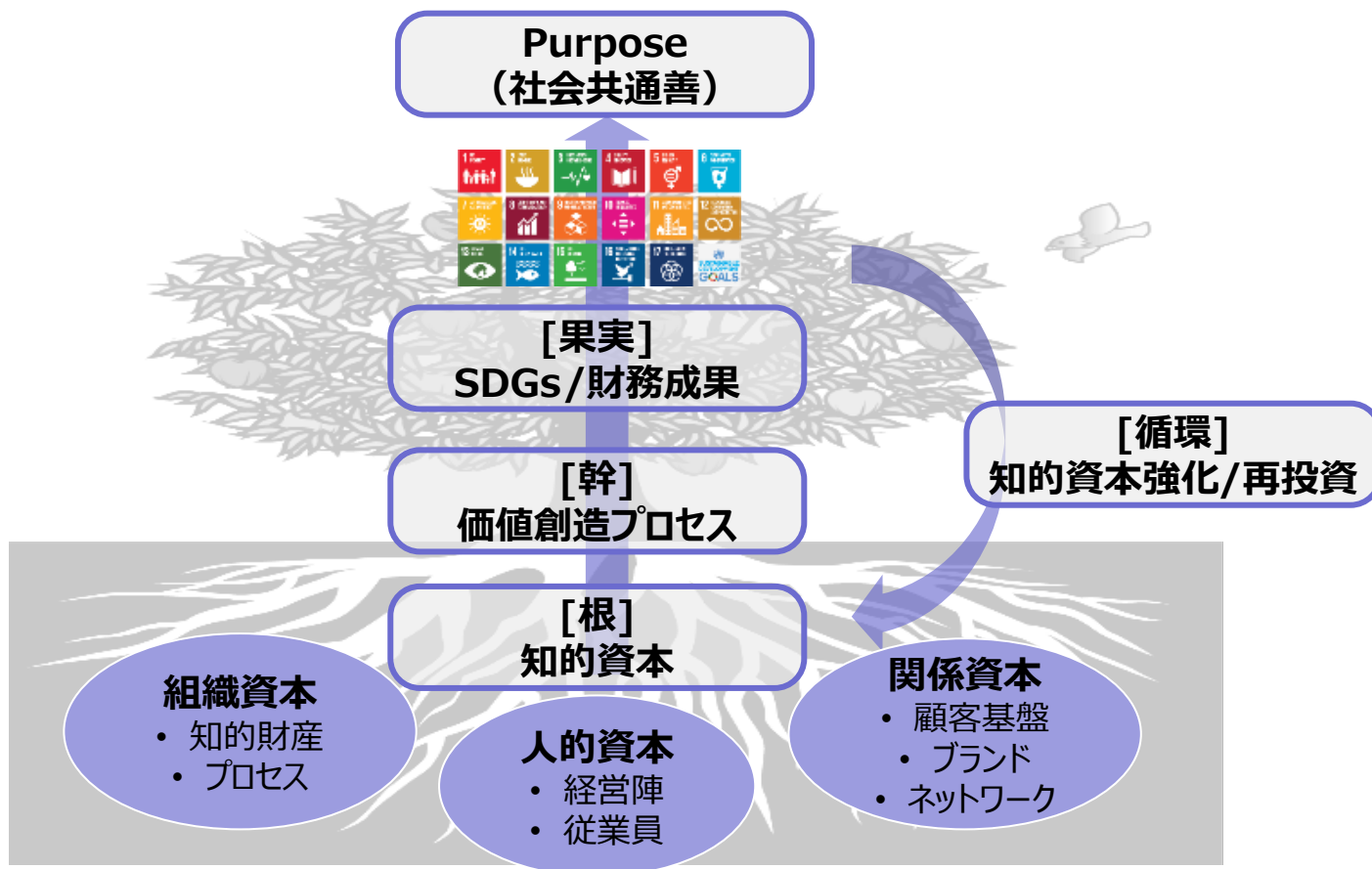


初期コスト0円、無駄払い0円！安価な月額負担のみ

利用する従業員の在籍期間の月額利用料(270円税抜)を負担するのみ

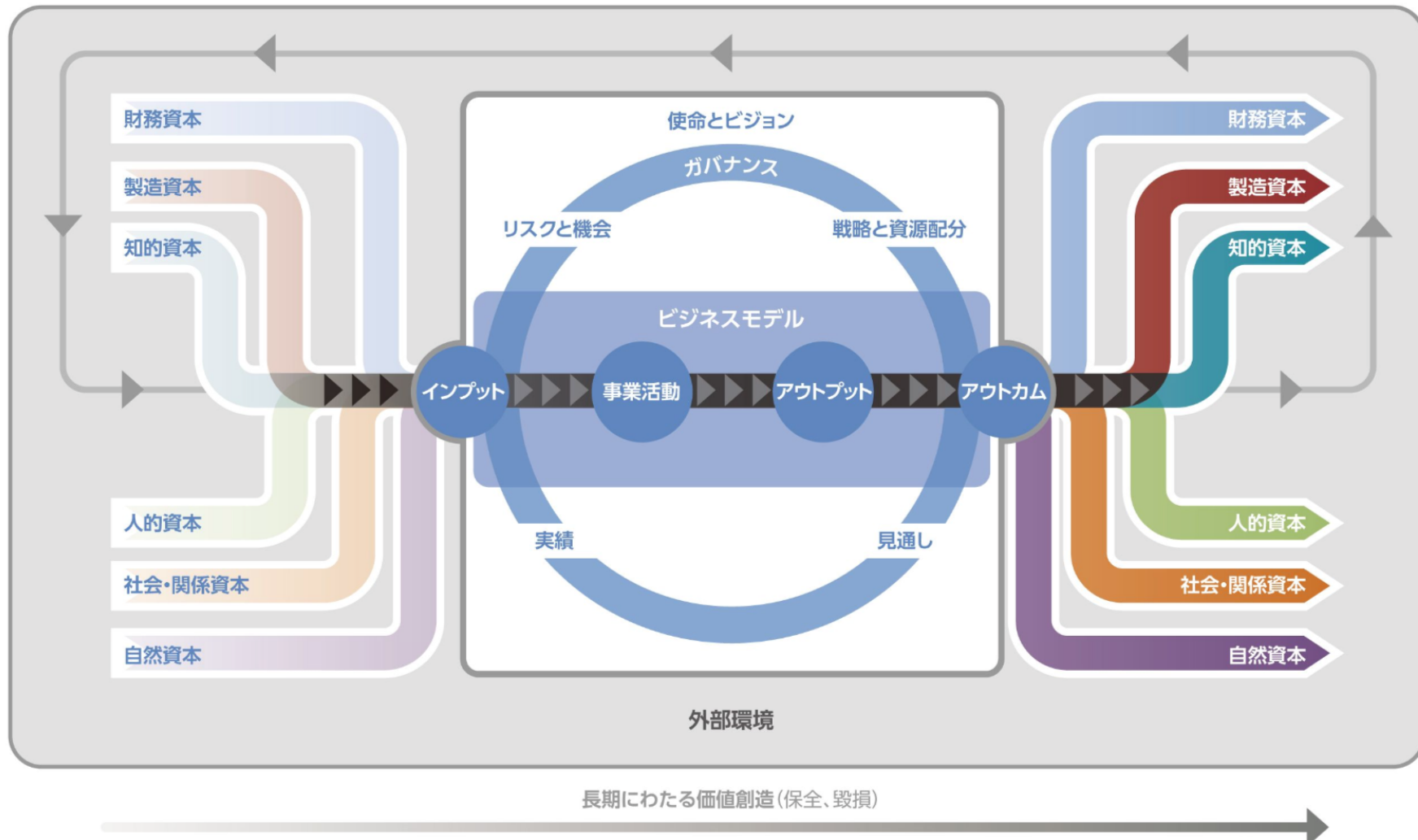
株式会社ICMG

■ 成長の源泉である知的資本を計画的に強め、持続的に企業価値を高める経営の考え方



企業の活動は木の生態

持続的に成果・価値【果実】を創るには、強みとなる知的資本【根】をしっかり伸ばすこと、成果に結びつけるための戦略・事業モデル【幹】の全体をデザインすることが必要



クイックアンケート

Q1

実際に非財務資産をKPIとして管理・モニタリングしている数に該当する項目に1つチェックをしてください(ご記憶の範囲で構いません)

- ① 0個
- ② 1-5個
- ③ 6-10個
- ④ 11-20個
- ⑤ 21個以上

Q2

非財務資産を管理・モニタリングする上で難しいことや困っていることは何ですか。該当する項目に1つチェックをしてください

- ① 社内で非財務資産の管理に対する理解を得られない
- ② 社内でも人によって列挙する非財務資産が異なる
- ③ そもそも非財務資産を特定したり定量化することが技術的に難しい
- ④ 定量化できても数値の正確性や一貫性を担保することが難しい
- ⑤ 価値創造するためのビジネスモデルや戦略が不明瞭
- ⑥ とくに困っていることはない